別表第１（第10条関係）　　耐風診断調査票（一次診断）

【木造住宅耐震（診断・改修）事業等補助金用】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象 | 項目 | 記入欄 |
| 一次診断者 | 所属名 |  |
| 診断者名 |  |
| 所在地 |  |
| 連絡先 | TEL：　　　　　　　　Mail： |
| 評価依頼者 | 氏名 | 　　　　　　　　　　様　　　　　　連絡先： |
| 建築物の概要等（ヒアリング） | 所在地 |  |
| しゅん工時期 | 築年数　　　年 | しゅん工時期　西暦　　　年 | □不明 |
| 増築有無 | □無　□有　増築部築年数　　　　年　　　概要： |
| 階数 | □平屋 | □2階建 | 屋根勾配：□６寸以下　□急勾配 |
| 屋根形状 | □寄棟　□切妻　□入母屋　□片流れ　□その他（　　　　　） |
| 屋根材 | □粘土瓦　□PC瓦　□J形　□F形　□S形□瓦かどうか不明　□瓦以外の屋根材 |
| 屋根改修 | □無　□有　実施時期　西暦　　　年　　概要： |
| 屋根不具合 | □無　□有　□雨漏り（　　　　）　□しっくいの剥がれ（　　　）　　　　　　□その他（　　　　） |
| 屋根診断（地上からの目視等） | 全体調査 | □屋根に被害がある　□屋根に変形・歪みがある　□瓦が飛散している　□瓦が崩れている　□瓦が破損している□瓦にずれや浮上がりがある　□接着剤の流出痕がある□その他の破損等（　　　　） |
| 適合診断 | □上記の「全体調査」に該当する項目がある |
| □2001年より以前に施行された瓦屋根の建築物であり、屋根改修がされていない。　 |
| □瓦屋根が土葺き工法だと思われる。　□瓦屋根の工法が不明 |
| □瓦屋根が非防災タイプだと思われる。□瓦屋根の種類が不明 |
| □瓦屋根の緊結方法が下図のような方法となっている。瓦の配置が蛇行しており、留め付けがされていない可能性が高い瓦にボルト・ビス等による緊結がない瓦にビス・銅線等による緊結がない瓦にビス・銅線等による緊結がない平部がずれている緊結材が見える袖瓦に緊結材が見えない軒瓦に緊結材が見えない |
| 診断結果 | □地震又は強風により脱落・飛散するおそれが低い（上記「適合診断」に該当する項目がない）。 |
| □耐震性・耐風性を確認するためには二次診断の実施が必要（上記「適合診断」に該当する項目が1以上ある）。 |
| 所見 |  |

別表第１（第10条関係）　　耐風診断調査票（二次診断）

【木造住宅耐震（診断・改修）事業等補助金用】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 対象 | 項目 | 記入欄 |
| 調査担当 | 会社名・代表者 | 会社名：　　　　　　　代表者名： |
| 所在地 |  |
| 連絡先 | TEL：　　　　　　　　Mail： |
| 診断資格者名 | 氏名： |
| 診断者の資格 | □瓦屋根診断技士　□瓦屋根工事技士　□かわらぶき技能士（1級、2級）□建築士（1級、2級、木造）　□その他 |
| 依頼者 | 氏名 | 　　　　　　　　　　様 |
| 対象建物 | 住所 |  |
| 瓦の種類 | □Ｊ形　□F形　□S形　□PC瓦　□その他（　　　　） |
| □防災瓦　□非防災瓦 |
| 構法 | □引掛け桟　□土葺き　□接着補強　□その他（　　）□不明（　　　）　 |
| 平部 | 桟瓦の留め付け | □全数　□千鳥緊結　□（　）枚おきに留め付け　□無緊結　□不明（　　　） |
| □くぎ（1本以上）　□ねじ（1本以上）　□緊結線　□その他（　）□不明（　　）□瓦の種類がF形かつ非防災瓦である場合、くぎ等2本以上で緊結 |
| 劣化・損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）部位：□瓦　□接合部　□瓦桟木　□下葺き材（種類：　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散・脱落　□損傷□その他（　　　） |
| 軒部 | 軒瓦の留め付け | □全数3点緊結　尻部（2本以上）：□くぎ　□ねじ　□緊結線　　　　　　　　補強（1本以上）：□パッキン付ねじ　□7形くぎ　□緊結線□全数補強なし　□補強なし　□不明（　　） |
| 劣化・損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散・脱落　□損傷　□その他（　　　） |
| けらば部 | 袖瓦の留め付け | □全数3点緊結　尻部（2本以上）：□くぎ　□ねじ　□緊結線　　　　　　　　補強（1本以上）：□パッキン付ねじ　□7形くぎ　□緊結線□全数補強なし　□補強なし　□不明（　　） |
| 劣化・損傷等の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□割れ　□浮き　□ズレ　□飛散・脱落　□損傷　□その他（　　　） |
| 棟部 | 棟の種類・状態 | □冠瓦伏せ棟の場合 | 冠瓦の固定：□全数留め付け　□（ ）枚おきに留め付け □なし　　　　　　□ねじ　□くぎ　□緊結線　不明（　　　） |
| □のし瓦積み棟の場合　 | 大棟（ ）段　隅棟（ ）段　□下り棟（ ）段冠瓦の固定：□ねじ　□トンボ（棟芯あり）　□トンボ（棟芯なし）　□大回し等　□なし　□不明（　　　　　）のし瓦の固定：□緊結線（相互緊結）　□なし　□不明（　　　　） |
| 劣化状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□浮き・ズレ　□脱落　□損傷　□緊結材の切れ・浮き　　　□しっくいの劣化　□その他（　　　　　） |
| 谷部 | 谷部の状況 | □劣化等なし　□劣化等あり　□不明（　　　　）状態：□瓦の浮き・ズレ・脱落　□板金の孔開　□その他（　　　　　） |
| 改修が必要な部位★ | □平部　□軒部　□けらば部　□棟部　□谷部　□その他（　　　） |
| 診断結果 | □地震又は強風により脱落・飛散するおそれが低い。（上記「改修が必要な部位」がない） |
| □耐震性・耐風性を確保するためには改修の実施が望ましい。（上記「改修が必要な部位」が1つ以上ある） |
| 所見・要望事項 |  |

|  |
| --- |
| □屋根伏図　□その他（　　） |
| （写真を添付） | （写真を添付） |
| 改修が必要な部位 | 改修案 |
| □1階□2階 | □平部　□軒部　□けらば部□棟部（　棟）　□谷部□その他（　　　） |  |
| □1階□2階 | □平部　□軒部　□けらば部□棟部（　棟）　□谷部□その他（　　　） |

※下線は令和２年国土交通省告示第1435号により改正された昭和46建設省告示第109号の規定に対応する仕様を示す。

※著しく損傷・劣化等している場合は、その状況や位置が分かるように写真を撮影し、屋根伏図等にその位置と写真番号を示す。

★「改修が必要な部位」が告示基準に適合する場合、原則、その部位の改修工事については補助対象外とする。